

令和3年度建設労働災害防止大会開催

高田河川国道事務所工事安全対策協議会は、9月22日、糸魚川市マリンドリーム能生で、「建設労働災害防止大会」を開催しました。

この大会は、毎年9月第4週の北陸地方整備局「建設労働災害防止週間」活動の一環として、発注者・受注者が一堂に会し、工事現場における労働災害の撲滅を図ることを目的に行っているものです。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者を絞っての開催とし、受注者の工事担当者、安全対策協議会役員、監督支援業務担当技術者、事務所職員など、約80人が参加、安全への意識を再確認するとともに、労働災害のない安全で安心して働ける職場環境の形成を目指して邁進することを確認しました。



安全管理に努め、地域の安全・安心を支える



開会の挨拶で堀会長（高田河川国道事務所長）は、「建設産業は社会資本の整備や維持管理を担い、地域の経済、雇用を支える基幹産業であるとともに、災害発生時にはいち早く現場に駆けつけ、応急対策、復旧作業に取り組むなど、地域の安全・安心を支える重要な役割を担っている。管内ではこれまでに労働災害1件、公衆災害2件が発生し、前年同期比より労働災害が1件少なく、公衆災害が1件多い。

本大会を契機とし、関係者一丸となって、安全確保への取り組みをお願いしたい。工事最盛期を迎え、また、降雪期を控え気候も厳しくなるので、これまで以上に気を引き締めて、新型コロナウイルス感染症対策にもしっかりと取り組み、安全衛生管理を行うことが求められる。」と、呼びかけました。

来賓ご挨拶

上越労働基準監督署の五十嵐副署長からは、「上越労働基準監督署管内において、労働災害が前年比増加している。現場内において、お互いが安全意識を持てるよう、コミュニケーションを活性化して無事故、無災害に努めて頂きたい。」と、お話しがありました。



上越労働基準監督署 五十嵐副所長



妙高警察署交通課 工藤課長

妙高警察署交通課の工藤課長からは、ご挨拶と講話を頂きました。

「上越地区の交通事故発生件数は、妙高及び糸魚川警察署管内では前年比減少しているが、上越警察署管内では約1割増加している。

秋から年末に向けて、歩行者の安全確保や、夕暮れ、夜間の事故防止等、安全意識の向上に努め、交通事故発生防止に取り組んで頂きたい。」と、お話しがありました。

講演「建設業における労働災害の防止に向けて」

上越労働基準監督署 五十嵐副署長

上越労働基準監督署の五十嵐副署長には、ご挨拶に引き続き、「建設業における労働災害の防止に向けて」と題してご講演をいただきました。

上越労働基準監督署管内では、建設業において、39件の労働災害（前年比+5件）、1件の死亡事故（前年比+1件）が発生したとの報告がありました。

また、不適正な請負形態（偽装請負）から生じる労働災害撲滅のために、種々の請負契約について、事例を挙げながら説明されました。



安全優良受注者表彰の取組事例報告

9月13日に令和3年度の北陸地方整備局安全管理優良受注者表彰があり、北陸地方整備局管内で18者が表彰されました。

高田河川国道事務所安全協議会員からは、「上沼道 上広田地区軟弱地盤改良その5工事」を施工した田中産業（株）が受賞されました。大会では受賞披露と、安全管理に対する取組事例報告をしていただきました。



受賞披露と取組事例報告をする田中産業株式会社の大瀧さん

安全十訓、安全宣言を採択

（株）笠原建設の本間さんの発声により参加者全員で「安全十訓」を確認しました。安全十訓の唱和については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、唱和を取り止めとしました。その後、前田道路（株）の菅井さんから、「一人の被災者も出さないため、本大会を契機として安全管理の原点に立ち返り、労働災害のない安全で安心して働ける職場環境の形成を目指す」と、安全宣言を提案、採択しました。



（株）笠原建設の本間さんより安全十訓の発声



前田道路（株）の菅井さんが安全宣言の提案

閉会挨拶

閉会の挨拶に立った、西田副会長（西田建設（株）代表取締役）より、
「コロナ禍が終息しない中、2度目の大会を迎えることになりました。

建設業は、地震、雨等様々な災害に対応できる施設を作っていくことであり、少子高齢化の中、雇用確保のための週休二日制対応や残業規制、新型コロナウイルス感染防止対策等、様々な取組みを行いながら対応していかなければなりません。

本日発表された安全管理に対する取組事例の中には、目新しく、参考になる事例もあり、これからも色々な知識を増やしながら品質の向上、安全管理に努めていきたい。」と挨拶があり、本大会を終了しました。

